



## かわりのきかないたった一つの「命」

校長 桃井 陽子

寒空の朝、子どもたちが自分のペースを守りながら元気いっぱい運動場を走る姿があります。本校の「すこやか委員会」の全校チャレンジマラソンの取組です。少しでも体力アップを図ろうと12月までこの活動は続きます。「すこやか委員会」の子どもたちが毎朝進んで準備したり、片付けをしたりする姿もまた、すがすがしく感じます。

さて、11月27日から12月8日までが本校の人権週間になっています。27日の朝会では、人権に関する話、特に今年度は「命」に視点をあてるということで、次のような話をしました。

校長先生はアンパンマンが大好き、特に「アンパンマンマーチ」の歌詞が大好き、と話しながら「アンパンマンマーチ」の曲をかけました。

♪そうだ！うれしいんだ生きる 喜び たとえ胸の傷が痛んでも 何のために生まれて何をして生きるのか...略♪  
そしてその作者、やなせたかしさんについて触れ、詩を紹介しました。

### 「しっぽのちぎれたメダカ」 やなせたかし

まだとても小さいとき 初めてぼくが愛したのは しっぽのちぎれたメダカだった  
牛乳びんの中で飼っていた しっぽのちぎれたかわいいメダカ とてもおかしい顔をしていた  
ぼくを見るとうれしそうにちぎれたしっぽをふっていたんだ  
でもある雨のふる朝にメダカはだまって死んでしまった  
ぼくはひどく悲しかった なみだがこぼれてとまらなかった  
おとなはみんなおおわらした  
「メダカはいっぱいおよいでいる」 「かわりのメダカはすぐに見つかる」  
泣きじゃくりながらぼくは思った かわりのメダカはいないんだ  
しっぽのちぎれたおかしな顔の あのメダカでなくちゃいけないんだ  
どんなにたくさんメダカがいても ぼくの愛したのはいっぴきしかいない

子どもの頃のやなせたかしさんにとって、このしっぽのちぎれたメダカを愛していてかわりのメダカはいないということ。同じように1000人の原の子は一人ひとり違って、かわりのきかないたった一つの「命」、かけがえのない「命」を、それぞれもっている。だから自分を大切に、そして同じように仲間も大切にしましょうと伝えました。

次に、今年の7月18日、医師で105歳で亡くなった日野原重明さんが書かれた「いのちのおはなし」を紹介しました。日野原重明さんは「命」は自分もっている時間ととらえています。そして、自分もっている「命」の時間は、ろうそくのように段々減っていくのではなく、大事な時間を、大きな空っぽの器に詰め込んでいくものととらえていることを話しました。大きな空っぽの器に何を詰め込むかは自由。自分のために使った時間もあれば、人のため、誰かのために使った時間もある。校長先生も、こうすればよかったとかこんな言い方をすればもっとよかったとか失敗や間違ってしまったことや、これはよかったなどということもある。最もいけない時間の使い方は、人をいじめること。友達の上履きを隠したり、傘を折ってしまったり...このような時間を自分の「命」の大きな器に詰め込みたくない。自分の時間をどう使うかで、やなせたかしさんの「アンパンマンマーチ」にあるような生きる喜びにつながります。何を詰め込むかは自由、自分で決めること。

このような話をした後、29日の朝、6年生の人権発表の中で子どもたちが「命」は時間ととらえ、自分の時間をどう使うか、何に使うかしっかり考えを伝えていて、うれしくなりました。

保護者の皆様、地域の皆様、平成29年の本校の教育活動に様々な形でご協力、ご支援いただいたことに深く感謝しております。ありがとうございました。

来る平成30年もお力添えをどうぞよろしく願いいたします。

### 作品のホームステイ始めました！！

図工の時間にできた作品を阿久和地域ケアプラザと学校の隣にあるグループホーム「ほのぼの」にホームステイすることを始めました。子どもたちの作品を見て、ほっと和んでいただけたら幸いです。



## 未来を担う子どもたち ～新しく生み出す(つくる)ことは、生きること～

校長 桃井 陽子

平成30年が幕開きました。皆様おそろいで、穏やかな新年を迎えられたことを、お慶び申し上げます。

今年も1月8日、阿久和南部連合自治会の「どんど焼き」に大久保原公園に行きました。お正月で使ったお正月飾りを火にくべ、歳神様をお見送りしながら無病息災や五穀豊穡を願う日本の伝統的行事。老若男女が集う「ふるさとの風物詩」としての、この風景に感銘を受けながら、学校の安全と自身の健康を祈りました。お団子の焼き加減も回を重ね、だいぶ上手になりました。

その後、学校に戻る前に熊野神社に初詣に行くことを思い立ち、鳥居をくぐり参拝しようとしたときです。一人の6年生が私のところへ歩み寄り、新年の挨拶。「校長先生、あと3ヶ月、がんばります。どうぞよろしくお願いします。」笑顔で話すその姿が大変すがすがしく、新年にふさわしいなあと感じました。3ヶ月後の自分のなりたいゴールのイメージを明確にもち、中学生になる期待をその姿から感じたからです。参拝を済ませ、心うきうきと学校に戻りました。

・・・新年は不断に流れていく時間に付けた目盛りの一つとみてよい。年が新しくなるばかりではなく、諸君のいのちがここでまた新しくなろうとするように。足踏みしてはいけない。働いて生きること、また生まれ出ることを考えようではないか？くれぐれも自分をきまってしまったものと考えてはいけない。諸君の若さの中には、いろいろの新しい芽生が睡(ねむ)っていて自分はそれを知らずにいるのだと思う。老人になると、捨ててあった芽生に気がついていても、それがもう枯れてしまっていて、伸ばしたくともその力が失われていることが多い。若い日は大切だ。新年を迎えて、そのことをよく考えて貰いたいと思った。・・・

この文章は、横浜にゆかりのある作家、大佛次郎氏が書いた「新年に寄せて」と題する随筆の一節です。この文章を読むと何かしら元気が湧いてきて、決意を新たに生み出すことができるから不思議です。

大佛次郎氏の言葉を借りていえば、「自分はこれしかできない」とか「自分はこれでいいんだ」というように、「今の見えている自分で、自分を決めつけて考えてはいけない」ということです。また「新しい自分をつくることは、新しいいのちをつくり、生きることだ」と。それが、若さの証だということです。若い時の自分を見つめることや学びの大切さを述べています。年齢を重ねた人でもこのような思いをもちたいものですが・・・

さて、子どもたちが学校に戻ってきたことで、一気に校舎や教室はすがすがしさとエネルギーに満ちあふれました。子どもたちには「一人ひとは、(自分が)まだ気がついていない様々な力をもっている。自分の知らない新しい自分を見出すことが、生きることでもある。それは新しいいのちをつくることでもある。」ということを折に触れ、伝えたいと思います。

子どもは大人と違って、未来に長い時間とたくさんの可能性をもっています。子どもたちには、自分のよさを、自分らしさを自覚し、その子だけしかない発想や創造性を磨き、また、臆せず自分自身を新しく生み出すことができるようにと願っています。未来を担う子どもたちのため、日々の教育活動の充実を教職員一丸となって推し進めていきます。

温かさにあふれた「ふるさと」地域を土壌とし、今年も保護者の皆様、地域の皆様と手を携え、連携して子どもたちの健全な成長を目指します。引き続き、ご支援、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

# 原小だより



横浜市立原小学校

平成30年 2月1日

2月号

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/hara/>

見えないつながり 見えるつながり

副校長 高嶋 聡

時間の流れをととても早く感じます。新年の爽やかなあいさつで始まった1月も終わり、2月3日は、もう節分です。翌日の立春からは暦の上では春を迎えることになりますが、まだ町のいたるところに先日降った雪が固く凍って残っています。この先、また雪が降るとの予報もあり、心配です。

先日の大雪では、交通の混乱など、大変なこともありました。子どもたちは、中庭に積もった雪の感触を楽しんだり、力を合わせて雪だるまを作ったりと、とても楽しそうな生き生きとした姿を見せてくれました。

先日の大雪を通して、私は「人のつながり、関わり合い」について考える機会となりました。大雪の当日や翌朝、歩くのも大変な状況の中、バスや電車は混雑し、運行にも乱れが生じ、大変な思いをした方も多いと思います。しかし、少しでも影響を少なくしようとバスや鉄道の職員の方々は、私たちの見えないところできつとたくさん時間をかけ、大変な努力をしたのだらうと思います。そのような見えない人たちの努力のおかげで無事に家に帰りつき、翌朝も学校にたどり着くことができました。素直に感謝の気持ちがわきました。

また、滑りやすい雪道の登校を多くの保護者や地域の方々に見守っていただきました。通学路の状況を学校に伝え、安全な登下校について一緒に考えてくださった方もいました。地域の中には、児童の安全な登下校のために雪かきをしてくださった方もいるのではないかと思います。給食の物資を運ぶ業者の方々は、朝の早い時間にきちんと届けてくれました。大雪への備えや対応をしっかりしていただいたおかげだと思えます。また、子どもたちは知りませんが、朝の5時から学校敷地内の子どもが通る所の雪かきをした職員もいました。

今回の大雪を通して、我々の生活は見えない多くの人々の支えや関わりのおかげで成り立っていることを改めて実感しました。日頃から、見えないつながりにも目を向け、感謝をしていきたいと思えます。

しかし一方で、今、人と人の直接的な関わりが希薄になっているのではないかとこのことを耳にします。コンピュータ、スマホ、インターネットの急速な発達と普及により、機械を通して人と関わる時間が増え、顔をつきあわせた人と人の関わり時間が少なくなっていると言われていいます。それにともない、他の人への思いやりも失われつつあるのではないかとこの危惧もあります。人の気持ちを推し量る力は、成長の過程で人と人の関わりを多くもち、様々な経験や葛藤を通して育まれるものではないかと思えます。直接人と人が関わり、共感や対立などを通して感じ、考え、悩みながらよりよい人と人の関わり方を身に付けていくものだと思えます。

このような時代だからこそ、学校は同年齢・異年齢が集まり、他の人との関わりをもてる大切な場であると思えます。授業では、他の人の意見をきちんと聞くことで、理解や考えを深めることができます。ペア学年活動等の異学年の関わりを通して共に活動する喜びを味わいながら多くのことを学ぶことができます。教育ボランティアの方々との活動の中で地域や大人との関わりをもつこともできます。これからは様々な教育の場面で人と人のつながりを大切にしていきたいと思えます。

人との見えないつながり、見えるつながりの両方で、私自身が大切にしなければと思っている言葉を紹介いたします。相田みつをさんの言葉で、『いいことはおかげさま わるいことは身から出たさび』です。毎日の生活の中でお世話になっている人、物、出来事に感謝の心を持ち、うまくいかなかったことは、まず自分を振り返ってみることを大切にしたいと思えます。つい、逆の考えになってしまわないように気をつけながら過ごしていきたいものです。



## 夢や希望

～なりたい自分を思い描く～

校長 桃井 陽子

プール裏の紅梅が満開の時を迎えています。ようやく円形花壇の白梅も咲き始めました。1年生が育てているチューリップやクロッカス、ヒヤシンスなども芽が出たり、花が咲いたりして、確かな春の訪れを感じます。3年生のブロッコリーもかわいいです。また、毎年なのですが、花ボランティアの皆様が卒業式や修了式に向けて、雑草を抜いたり花を付け足したりして花壇を整備してくださいました。本当にありがたいことです。

2月21日は「6年生を送る会」でした。5年生が作り直した真新しい花のアーチを、6年生が笑顔あり、緊張感あり、そして少し誇らしげな表情でぐり抜けて入場してきました。6年生への感謝や卒業を祝う気持ちを学年に応じた出し物で伝え、体育館がたくさんの「ありがとう」であふれていました。

1年生は「はるなつあきふゆ」。かっこよかった6年生との一年間の思い出を歌と呼びかけで伝えました。1年生にとって6年生は、入学した時から一番お世話になった、頼りになるあこがれの存在です。自分のペアの6年生はどこかな？と探す姿に関わりの深さを感じました。

2年生は国語で学習した「たんぼぼのちえ」をもとにして、小学校で蓄えた知恵を活かして中学校でもがんばってくださいというメッセージを、元気いっぱい贈りました。

3年生は「よろこびの歌」の合唱奏。自分の分担した楽器や歌を気持ちをこめて奏することができました。指揮者を見るまなざしや美しい歌声、強弱のある音、迫力のある音色に6年生への感謝の思いを感じました。

4年生は「拝啓 6年生の皆さんへ」から始まる手紙を、伴奏のメロディーが流れる中みんなで読み、伝えました。4年生から見た6年生の姿は頼もしい先輩として映り、自分がなりたい姿であることが綴られていました。

5年生は「最後のチャイム」の群読。「最後のチャイム」は6年生が5年生の時に群読した詩です。去年の5年生がすばらしかったから自分たちもやりたくなった、とのことでした。「今、卒業の時...勇気と希望をもって、明日へつよく踏みだそう...」詩の言葉をかみしめながら伝える5年生の姿から、リーダーとしての意識を高め、6年生からバトンを引き継ぐ、「今度は自分たちの番」という心構えを感じることができました。

6年生は、在校生のメッセージを受けてリコーダー奏と合唱をお返ししました。この一年間、原小のリーダーとして行動してきた6年生。その表情は正にゴールを間近に控えたリーダーの顔、そのものでした。周りのことを考えて率先して行動してきた分、リーダーとして自分を成長させることができました。私は、この「6年生を送る会」から卒業式の3月20日までの時間があることに大きな意味がある、価値があると感じています。学年に応じて子どもたちがこの思いを温め、ふくらませることができるからです。

どの学年も、どの子も、それぞれに成長し、学年のゴールを迎えます。子どもたちには自分の成長に気付きながら、支えてくれている多くの方に感謝の気持ちをもってほしい。そして自分のことをもっと好きになり、夢や希望をもち、なりたい自分の姿を思い描きながら、新たな一年のスタートを迎えてほしいと期待しています。

地域の皆様、保護者の皆様、29年度も、いつも子どもたちを温かく見守り、本校教育活動にご協力、ご支援を賜りましたことに、教職員一同感謝申し上げます。ありがとうございました。

## お知らせ

横浜市は、「横浜市いじめ防止基本方針」を策定し、いじめ防止等の取組を進めてきました。この度、国の「いじめの防止等のための基本的な方針」の改定（29年3月14日）等に伴い「横浜市いじめ防止基本方針」を改定しました。各学校では市の基本方針を参考にしつつ、学校で策定している「学校いじめ防止基本方針」を改定し、学校、保護者、地域、関係機関等が連携して、いじめ防止等に取り組むことになりました。本校でも「原小学校いじめ防止基本方針」を見直し改定をして、2月28日に学校のホームページに掲載し、公表していますのでぜひご覧ください。これからも、いじめ問題への取組を一層強化していきます。